

# 平成 24 年度事業報告書

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人アブカス

## 1. 事業の成果

今年度もスリランカ事業に加え、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県気仙沼市を中心に、引き続き現地事務所を構え、継続的かつ多岐に渡る支援活動を実施した。

2011 年 8 月から実施している「仮設住宅の総合的な住環境改善」事業に関しては、昨年度の適正技術による断熱改善支援に引き続き、仮設住宅窓面へのグリーンカーテンや屋上緑化などの遮熱対策、法面緑化、収納支援等も多数のボランティアと実施した。当支援事業は、京都工芸繊維大学、大阪大学、明石高専の建築学、環境工学の専門家、企業と協働で効果検証も行き、仮設住宅の居住性と改善手法に関する学術データも広く公表するに至った。

「仮設集会所の設置による地域再建支援」に関しては、気仙沼市本吉地区の「津谷大沢区振興会館」が 2012 年 6 月に家屋が無事完成し、市長、自治会関係者、地域住民が多数集まり、完成譲渡式を行った。多くの住民が、そのデザイン性や居住性の高さを評価し、復興に向けた話し合いの場や住民同士の懇親の場として活発に利用されている。それ以降も同敷地内の遊具の修理やトイレ建設も行い、地域の様々な人が利用しやすい場所づくりを地域住民と協働で実施した。

「被災エリアにおける共同農園の設置と運営」事業では、気仙沼市本吉町津谷地区の被災エリアの近隣農地に 10 区画の共同農園を新たに整備した。近くの仮設住宅に暮らす 7 名が参加し、農作業や農園での交流を通して、心と体の健康を取り戻す機会を提供することができた。また、「あかりカフェおよびあかりワークショップの巡回実施」では、関西の建築デザイナーや東京の照明デザイングループ、多くの学生ボランティアと協働で、あかりをテーマにした食事を楽しめる交流空間をデザインし、仮設住宅やお祭り会場で巡回実施した。被災後、初めてのお祭り開催となった地区でも、お祭り会場の観覧席などにも利用され、多くの住民に喜ばれた。また、あかりカフェと同時に開催されたあかりワークショップでは、地域の子どもを招待し、デザイナーや学生が講師となり手作りの LED 行灯を作るワークショップを行い、子どもたちが創意工夫してつくり上げた行灯を夏祭りの会場に飾るなどして、地域のお祭りを盛り上げた。

「被災エリアにおける交流促進のための場づくり」事業では、自治会、仮設住宅コミュニティ、他の支援団体など地域の多様なグループと積極的な交流を行った。また、過疎被災地域における若年世代の学びや交流の場として、酪農学園大学や明石高専の学生ボランティアを継続的に多数受け入れ、被災地住民との交流を通して、地域づくりの課題を実践的に学んだり、それぞれの専門分野のフィールドワークを行ったりするコーディネートを行った。「仮設住宅居住者への手仕事支援」事業では、北海道のクラフト関係者と協働して、10 月より仮設住宅の居住者を対象に糸つむぎのワークショップを複数回、実施した。

「東日本大震災に関する調査研究、支援情報収集と発信事業」に関しては、コミュニティ計画や建築学の専門家と協働で、住環境改善支援に関する技術検証、被災者の支援受け入れプロセスの社会心理学的な調査、被災地でのコミュニティデザインに関する調査研究等を行った。当該活動は、来年度も引き続き実施し、スリランカの事例ともリンクする形で、国内外の災害支援に関する知見を蓄積し、

広く発表を行っていく予定である。

一方、スリランカでは、中部州キャンディ県パウラーナ村の貧困状態にある 135 世帯を対象に酪農養鶏技術トレーニング実施、家畜の配付、鶏や牛乳の販売促進支援、家畜発展委員会の発足と促進等の一連の持続可能な農業の普及による生計向上支援活動「家畜飼育の導入による貧困削減と地域の平和促進」事業を通期で実施した。来年度以降も当該地域で同様の地域開発事業を進めて行く予定である。

「山間地における土壌流出防止技術および農産物生産力向上に向けたバイオ肥料の開発」事業では、当会が活動する中部州の山間地域で、エネルギー投入量が低く、土地に負荷の少ない農業技術を研究するために実験圃場を確保した。今後、日本とスリランカの専門家と共に、持続可能な農業技術や適正技術の可能性を検討する場としての整備を行っていきたいと考えている。

「視覚障がい者雇用促進のためのマッサージサロンの運営」事業もサロン開設から 2 年目を迎え、マッサージ師の技術やサービス向上のために、日本人の指圧専門家らの技術指導、政府の障がい者支援プログラムとの連携、マッサージサロンのプロモーション活動等を行い、開発途上国の社会企業の一つのモデルとなるように取り組みを進めている。スリランカで障がい者を巡る問題は根深い偏見や障壁は多いが、障がい者の社会進出を促進する一歩として、サロンの自立運営を目指し、両国のネットワークを繋げていながら、課題を解決していきたい。

また、「その他事業」に関しては、函館市の北海道国際交流センターで、当会の活動の PR を含め、スリランカで製作したフェアトレード商品の一部を展示会で販売してもらった。

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施月 日	実施の場所	従事 者の 人数	受益対象者 の範囲及び 人数	支出額 (千円)
地域開発事業	家畜飼育の導入による 貧困削減と地域の平和 促進	通期	スリランカ中部 州キャンディ県	8 名	135 世帯	9,567 千円
〃	視覚障がい者雇用促進 のためのマッサージサ ロンの運営	通期	スリランカ西部 州コロombo県	12 名	4 名の障が い当事者と 家族	156 千円
〃	山間地における土壌流 出防止技術および農産 物生産力向上に向けた バイオ肥料の開発	通期	スリランカ中部 州ヌワラエリア 県	12 名	近隣農家 2,000 人	84 千円
災害やその他 の緊急事態に 対する救援・ 復興支援事業	仮設住宅の総合的な住 環境改善	通期	宮城県気仙沼市	25 名	仮設住宅 523 世帯	6,398 千円
〃	仮設集会所の設置によ る地域再建支援	通期	宮城県気仙沼市	15 名	近隣住民 500 名	471 千円
地域開発事業	被災エリアにおける共 同農園の設置と運営	通期	宮城県気仙沼市	6 名	参加者 20 名	2,381 千円
〃	あかりカフェおよびあ かりワークショップの 巡回実施	6 月～	宮城県気仙沼 市、石巻市		近隣住民 1500 名	2,400 千円

〃	被災エリアにおける交流促進のための場づくり	通期	宮城県気仙沼市、石巻市	25名	近隣住民 1500名	499千円
〃	仮設住宅居住者への手仕事支援(気仙沼市)	10月 ～	宮城県気仙沼市	5名	参加者 20名	208千円
この会の活動を促進するための情報収集事業	東日本大震災に関する調査研究、支援情報収集と発信事業	通期	スリランカ、日本		500名	49千円

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施月 日	実施の場所	従事者の 人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
物品販売事業	フェアトレード商品の開発と販売	不定期	北海道など	3名	12名	0千円